

学校コード F127310111950
注3

設置年度 令和 4年度
計画の区分： 学部の学科の設置
注1

認可

注2
大阪信愛学院大学 看護学部 看護学科

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正前大学設置基準適用)

学校法人 大阪信愛女学院
令和5年5月1日現在

作成担当者	
担当部局(課)名	総務課
職名・氏名	カチョウ クボ ミキオ 課長 久保三喜男
電話番号	06-6939-4391 (内線: 1180)
(夜間)	FAX 06-6931-0373
e-mail	soumuka@osaka-shinai.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称: ◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合: 「〇〇大学」
- 学部の設置の場合: 「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合: 「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合: 「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合: 「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合: 「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合: 「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合: 「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

看護学部

＜看護学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	15
4. 既設大学等の状況	16
5. 教員組織の状況	17
6. 附帯事項等に対する履行状況等	31
7. その他全般的事項	33

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人大阪信愛女学院

(2) 大学名

大阪信愛学院大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒536-8585

大阪府大阪市城東区古市2丁目7番30号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(イワクマ ミナコ) 岩熊 美奈子 (平成29年4月)		
学長	(イワサワ カズコ) 岩澤 和子 (令和4年4月)		
学部長	(イワサワ カズコ) 岩澤 和子 (令和4年4月)	(エンドウ トシコ) 遠藤 俊子 (令和5年4月)	設置計画により遠藤俊子学部長着任を令和5年4月としていたため。(5)
学科長等			

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)
令和5年度に報告する内容 → (5)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和5年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
看護学部 看護学科 学士(看護学)	保健衛生学関係(看護学関係)	4年	80人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	320人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A 入学定員	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	80人 []	(-) [-]	(-) [-]	(-) [-]	1.19倍	-	1.18倍	-	
志願者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	205 []	(-) [-]	(-) [-]	250 []					
受験者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	180 []	(-) [-]	(-) [-]	234 []					
合格者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	151 []	(-) [-]	(-) [-]	129 []					
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	95 []	(-) [-]	(-) [-]	96 []					
入学定員超過率 B/A									1.18			1.20					

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	95	[] ()	96	[] ()	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	94	[] ()	
3年次	/		/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
4年次	/		/		/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
計	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	95	[] ()	190	[] ()	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	95人	0人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	0人	0人	
令和5年度	190人	1人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	1人	0人	就職 1人
			令和5年度	0人	0人	
合計		1人		1人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{95} = \boxed{0} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{190} = \boxed{0.52} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<看護学部 看護学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	宗教と人間	キリスト教と人間	1前	1							1	
		現代とキリスト教	1後	1							1	
		人間論(哲学)	3前	1							1	
		宗教論	4後	1							1	
		小計(4科目)		4	0	0	0	0	0	0	0	2
	社会と人間	心理学	1前	1								1
		教育学概論 I	1前	1		1						
		ライフサイエンス	1後	1								1
		社会学	1後	1								1
		サービスラーニング	2通年	1			1	3	1			5
		キャリア入門	1前	1			1					1
		セーフティプロモーション	2前	1			1					
		生活と化学	1後	1								1
		社会と人権(日本国憲法)	1後	2								1
		ジェンダー論	2前	1								1
	生命倫理	1後	1								1	
		小計(11科目)		4	8	0	1	3	3	1	0	10
	表現・行動と人間	くらしと色彩	1後	1								1
		人と音楽	1前	1								1
		音楽療法入門	4後	1								1
園芸療法入門		4後	1								1	
体育講義		1前	1								2	
スポーツと健康		1前	1								1	
	小計(6科目)		0	6	0	0	0	0	0	0	6	
情報と人間	文章表現	1前	1								2	
	クリティカル・シンキング	2後	1								2	
	基礎ゼミ	1前	1		2	3					5	
	教養ゼミ	1後	1		3	1	1				5	
	社会調査法	2後	1		1			1			1	
	データサイエンス	2前	1		1							
	情報倫理	1前	1					1			1	
	情報リテラシー I	1前	1					1			1	
	情報リテラシー II	1後	1					1			1	
	小計(9科目)		5	4	0	3	1	3	1	0	11	
言語・文化と人間	Speaking & Listening	1前・後	1								1	
	Writing	1前・後	1								2	
	Reading I	1前・後	1								2	
	Reading II	2前・後	1								3	
	Process Writing	2前・後	1								1	
	時事英語	4前・後	1								1	
	医療英語	3前・後	1								1	
	フランス語 I	1前	1								1	
	フランス語 II	1後	1								1	
	異文化交流(海外語学研修)	1前	2		1		1				3	
	国際理解(カンボジア研修)	1前	1		1		1				2	
	文化人類学(異文化理解)	1前	1								1	
	小計(12科目)		3	10	0	1	0	1	0	0	8	
専門教育科目	専門基礎科目	人体の構造と機能(解剖学)	1前	1							1	
		人体の構造と機能 I	1前	2		1						
		人体の構造と機能 II	1後	1		1						
		人体の構造と機能 III	1後	1		1						
		生化学	1後	1							1	

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	宗教と人間	キリスト教と人間	1前	1							1	
		現代とキリスト教	1後	1							1	
		人間論(哲学)	3前	1							1	
		宗教論	4後	1							1	
		小計(4科目)		4	0	0	0	0	0	0	0	1
	社会と人間	心理学	1前	1								1
		教育学概論 I	1前	1		1						
		ライフサイエンス	1後	1								1
		社会学	1後	1								1
		サービスラーニング	2通年	1			1	3	1			5
		キャリア入門	1前	1			1					1
		セーフティプロモーション	2前	1			1					
		生活と化学	1後	1								1
		社会と人権(日本国憲法)	1後	2								1
		ジェンダー論	2前	1								1
	生命倫理	1後	1								1	
		小計(11科目)		4	8	0	1	3	3	1	0	10
	表現・行動と人間	くらしと色彩	1後	1								1
		人と音楽	1前	1								1
		音楽療法入門	4後	1								1
園芸療法入門		4後	1								1	
体育講義		1前	1								2	
スポーツと健康		1前	1								1	
	小計(6科目)		0	6	0	0	0	0	0	0	6	
情報と人間	文章表現	1前	1								2	
	クリティカル・シンキング	2後	1								2	
	基礎ゼミ	1前	1		2	1	2				5	
	教養ゼミ	1後	1		3	1	1				5	
	社会調査法	2後	1		1			1			1	
	データサイエンス	2前	1		1							
	情報倫理	1前	1					1			1	
	情報リテラシー I	1前	1					1			1	
	情報リテラシー II	1後	1					1			1	
	小計(9科目)		5	4	0	3	2	2	1	0	11	
言語・文化と人間	Speaking & Listening	1前・後	1								1	
	Writing	1前・後	1								2	
	Reading I	1前・後	1								2	
	Reading II	2前・後	1								3	
	Process Writing	2前・後	1								2	
	時事英語	4前・後	1								1	
	医療英語	3前・後	1								1	
	フランス語 I	1前	1								2	
	フランス語 II	1後	1								1	
	異文化交流(海外語学研修)	1前	2		1		1				3	
	国際理解(カンボジア研修)	1前	1		1		1				2	
	文化人類学(異文化理解)	1前	1								1	
	小計(12科目)		3	10	0	1	0	1	0	0	9	
専門教育科目	専門基礎科目	人体の構造と機能(解剖学)	1前	1					1			0
		人体の構造と機能 I	1前	2		1						
		人体の構造と機能 II	1後	1		1						
		人体の構造と機能 III	1後	1		1						
		生化学	1後	1								1

卒業要件及び履修方法	
1. 共通教育科目(計28単位以上)	(1)宗教と人間 必修4単位 (2)社会と人間 必修4単位 (3)表現・行動と人間 くらしと色彩、人と音楽から1単位選択必修 (4)情報と人間 必修5単位 (5)言語・文化と人間 必修3単位 Reading II、Process Writing、時事英語、医療英語、フランス語 I、フランス語 II、異文化交流(海外語学研修)から3単位選択必修 上記以外に心理学、社会学、文化人類学(異文化理解)から1単位選択必修
2. 専門教育科目	(1)専門基礎科目 必修28単位 (2)専門科目 計76単位以上 ①看護の基盤 必修18単位 ②ライフサイクルと看護 必修32単位 ③コミュニティと看護 必修17単位 ④看護の発展 必修9単位 自由選択4単位は卒業要件に含まない。
以上、共通教育科目28単位以上、専門教育科目の内、専門基礎科目28単位以上、専門科目76単位以上、合計132単位以上	
3. 養護教諭一種免許取得の場合	(1)卒業要件132単位に含める科目と単位 共通教育科目 28単位に下記の選択科目を含める 選択科目「教育学概論 I」「セーフティプロモーション」「社会と人権(日本国憲法)」「体育講義」「スポーツと健康」「情報リテラシー II」「Reading II」「Process Writing」「時事英語」の10単位 (2)卒業要件以外に取得する科目と単位 専門教育科目の内、 専門基礎科目 選択科目「環境と健康」1単位 専門科目 自由科目「学校保健」「養護学概説」4単位 教職科目 自由選択科目 「教育原理」「教職論」「教育制度論」「教育心理学」「特別支援教育」「教育課程論」「道德教育の理論と方法」「特別活動及び総合的な学習の指導法」「教育の方法と技術」「生徒指導」「教育相談」「教育実習事前事後指導」「教育実習(養護)」「教職インターンシップ」「教職実践演習(養護教諭)」21単位 以上、26単位と卒業要件132単位の合計158単位以上取得すること
4. 履修科目の登録の上限:49単位(年間)	

卒業要件及び履修方法	
1. 共通教育科目(計28単位以上)	(1)宗教と人間 必修4単位 (2)社会と人間 必修4単位 (3)表現・行動と人間 くらしと色彩、人と音楽から1単位選択必修 (4)情報と人間 必修5単位 (5)言語・文化と人間 必修3単位 Reading II、Process Writing、時事英語、医療英語、フランス語 I、フランス語 II、異文化交流(海外語学研修)から3単位選択必修 上記以外に心理学、社会学、文化人類学(異文化理解)から1単位選択必修
2. 専門教育科目	(1)専門基礎科目 必修28単位 (2)専門科目 計76単位以上 ①看護の基盤 必修18単位 ②ライフサイクルと看護 必修32単位 ③コミュニティと看護 必修17単位 ④看護の発展 必修9単位 自由選択4単位は卒業要件に含まない。
以上、共通教育科目28単位以上、専門教育科目の内、専門基礎科目28単位以上、専門科目76単位以上、合計132単位以上	
3. 養護教諭一種免許取得の場合	(1)卒業要件132単位に含める科目と単位 共通教育科目 28単位に下記の選択科目を含める 選択科目「教育学概論 I」「セーフティプロモーション」「社会と人権(日本国憲法)」「体育講義」「スポーツと健康」「情報リテラシー II」「Reading II」「Process Writing」「時事英語」の10単位 (2)卒業要件以外に取得する科目と単位 専門教育科目の内、 専門基礎科目 選択科目「環境と健康」1単位 専門科目 自由科目「学校保健」「養護学概説」4単位 教職科目 自由選択科目 「教育原理」「教職論」「教育制度論」「教育心理学」「特別支援教育」「教育課程論」「道德教育の理論と方法」「特別活動及び総合的な学習の指導法」「教育の方法と技術」「生徒指導」「教育相談」「教育実習事前事後指導」「教育実習(養護)」「教職インターンシップ」「教職実践演習(養護教諭)」21単位 以上、26単位と卒業要件132単位の合計158単位以上取得すること
4. 履修科目の登録の上限:49単位(年間)	

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	宗教と人間	キリスト教と人間	1前	1								1	
		現代とキリスト教	1後	1								1	
		人間論(哲学)	3前	1								1	
		宗教論	4後	1								1	
		小計(4科目)		4	0	0	0	0	0	0	0	2	
	社会と人間	心理学	1前	1									1
		教育学概論 I	1前	1		1							
		ライフサイエンス	1後	1									1
		社会学	1後	1									1
		サービスラーニング	2通年	1			1	3	1				5
		キャリア入門	1前	1			1						1
		セーフティプロモーション	2前	1			1						
		生活と化学	1後	1									1
		社会と人権(日本国憲法)	1後	2									1
		ジェンダー論	2前	1									1
	生命倫理	1後	1									1	
		小計(11科目)		4	8	0	1	3	3	1	0	10	
	表現・行動と人間	くらしと色彩	1後	1									1
		人と音楽	1前	1									1
		音楽療法入門	4後	1									1
園芸療法入門		4後	1									1	
体育講義		1前	1									2	
スポーツと健康		1前	1									1	
	小計(6科目)		0	6	0	0	0	0	0	0	6		
情報と人間	文章表現	1前	1									2	
	クリティカル・シンキング	2後	1									2	
	基礎ゼミ	1前	1			2		2				5	
	教養ゼミ	1後	1			3	1	1				5	
	社会調査法	2後	1			1			1			1	
	データサイエンス	2前	1			1						1	
情報倫理	1前	1							1		1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	情報リテラシーⅠ	1前	1						1			1	
	情報リテラシーⅡ	1後		1					1			1	
	小計(9科目)		5	4	0	3	1	2	1	0		11	
	言語・文化と人間	Speaking & Listening	1前・後	1									1
		Writing	1前・後	1									2
		ReadingⅠ	1前・後	1									2
		ReadingⅡ	2前・後		1								3
		Process Writing	2前・後		1								1
		時事英語	4前・後		1								1
		医療英語	3前・後		1								1
		フランス語Ⅰ	1前		1								1
		フランス語Ⅱ	1後		1								1
		異文化交流(海外語学研修)(未開講)	1前		2		1		1				3
	国際理解(カンボジア研修)(未開講)	1前		1		1		1				2	
文化人類学(異文化理解)	1前		1								1		
小計(12科目)		3	10	0	1	0	1	0	0		8		
専門基礎科目	人体の構造と機能(解剖学)	1前	1									1	
	人体の構造と機能Ⅰ	1前	2			1							
	人体の構造と機能Ⅱ	1後	1			1							
	人体の構造と機能Ⅲ	1後	1			1							
	生化学	1後	1									1	
	微生物学・免疫学	1後	1									1	
	生命科学	1後	2									1	
	疾病治療論Ⅰ	1後	2									1	
	疾病治療論Ⅱ	2前	2									1	
	疾病治療論Ⅲ	2後	1									1	
	疾病治療論Ⅳ	2後	1									1	
	栄養学	2前	1									1	
	病理学	2前	2									1	
	心のしくみと働き	1前	1									1	
	臨床薬理学	2後	1									1	
	発達心理学	2前		1								1	
	生活機能論	2前	1			1							
	健康教育論	2前	1			2							
	環境と健康	2前		1		1						1	
	社会健康学	2前	1			1							
	社会心理学	1前	1									1	
	家族社会学	1後		1								1	
	医療倫理	2前	1									1	
	社会福祉論	1前	1									1	
	保健統計学	2前	1			1							
	公衆衛生学(疫学)	2前	1									1	
小計(26科目)		28	3	0	5	1	0	0	0		15		
専門科目	看護の基盤	看護概論	1前	1			1						
		看護倫理	2前	1			2						
		基礎技術Ⅰ	1前	2			1	1	1	2			
		基礎技術Ⅱ	1後	2			1	2	1	2			
		フィジカルアセスメントⅠ	2前	2			1	1	1	2			
		フィジカルアセスメントⅡ	2後	2			3	2	4	1	1		
		看護理論	2前	1			3						1
		臨床判断論	2前	1			2		0	1			
		キャリアデザインⅠ	2前	1				1					
		家族看護論	2後	1			1						
		看護教育学Ⅰ	3前	1			2						
		ヒューマンケア実習Ⅰ	1後	1			2	3	6	1	5		
		ヒューマンケア実習Ⅱ	2後	2			1	2	6	2	5		
小計(13科目)		18	0	0	12	4	8	2	5		1		
ライフサイクルと看護	生涯発達看護論Ⅰ(母性)	2前	2			2		1					
	生活機能支援論Ⅰ-①(母性)	2後	1			1		1		1			
	生活機能支援論Ⅰ-②(母性)	3通年	1			1		1		1			
	生活機能支援論実習Ⅰ(母性)	3前	2			1		1		1			
	生涯発達看護論Ⅱ(小児)	2前	2			2		1					
	生活機能支援論Ⅱ-①(小児)	2後	1			1	1	2		1			
	生活機能支援論Ⅱ-②(小児)	3通年	1			1		2		1			
	生活機能支援論実習Ⅱ(小児)	3前	2			1		2		1			
	生涯発達看護論Ⅲ(成人)	2前	1			1							
	生活機能支援論Ⅲ-①(急性)	2後	1			1			1	2			
	生活機能支援論Ⅲ-②(慢性)	2後	1			2			1	2			
	生活機能支援論Ⅲ-③(リハビリテーション)	3前	1			1	1		1	2		1	
生活機能支援論Ⅲ-④(急性)	3後	1			1			1	2				
生活機能支援論Ⅲ-⑤(慢性)	3後	1			2			1	2				
生活機能支援論実習Ⅲ-①(急性)	3後	3			1			1	2				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	ライフサイクルと看護	生活機能支援論実習Ⅲ-②(慢性)	3後	3			2			1	2	
		生涯発達看護論Ⅳ(老年)	2前	1			1					
		生活機能支援論Ⅳ-①(老年)	2後	2			1		0			1
		生活機能支援論Ⅳ-②(老年)	3後	1			1		0		2	
		生活機能支援論実習Ⅳ-①(老年)	1前	1			2	1	3	1	6	
		生活機能支援論実習Ⅳ-②(老年)	3後	2			1		0		2	
		エンドオブライフケア論	3前	1			1		1			
	小計(22科目)		32	0	0	9	2	6	2	9	2	
	コミュニティと看護	メンタルヘルス・アセスメント	1前	1				0	2			
		メンタルヘルス・プロモーション	2前	1								1
		生活機能支援論Ⅴ-①(精神)	2後	1				1	1		1	
		生活機能支援論Ⅴ-②(精神)	3通年	1				1	2		1	
		生活機能支援論実習Ⅴ(精神)	3前	2				1	2		1	
		地域包括ケア論Ⅰ(在宅)	2後	2			1	1				
		地域包括ケア論Ⅱ(在宅・地域)	3前	1				1	1	1		
		地域包括ケア論Ⅲ(地域・学校)	3前	1			2					
		地域包括ケア論Ⅳ(在宅)	4後	1			2	1	1	1		
		地域包括ケア論実習Ⅰ(老年)	4前	1			1		0		2	
地域包括ケア論実習Ⅱ(在宅)		4前	2				1	1	1	6		
地域包括ケア論実習Ⅲ-①(統合:管理)	4前	1			1		1					
地域包括ケア論実習Ⅲ-②(統合:地域)	4前	1			2							
チーム医療論	3前	1			2		1					
学校保健	3前			2		1						
養護学概説	3前			2		1				1		
小計(16科目)		17	0	4	5	3	4	1	9	2		
看護の発展	看護マネジメント論Ⅰ	4前	2			2		1				
	看護マネジメント論Ⅱ	4後		1		1		1				
	国際看護Ⅰ	3前	1			2		1				
	国際看護Ⅱ	4前		1				1				
	災害看護Ⅰ	3前	1			1		1				
	災害看護Ⅱ	4後		1				1				
	キャリアデザインⅡ	3通年	1			4	1				1	
	看護研究Ⅰ	3前	1			2		1				
	看護研究Ⅱ	3後	1			11	4	7				
	看護研究Ⅲ	4前	1			12	4	7				
	看護研究Ⅳ	4後	1			12	4	7				
	専門職論	4前		1		2						
	看護政策論	4後		1		1						
	看護教育学Ⅱ	4後		1		1						
小計(14科目)		9	6	0	12	4	7	0	0	1		
教職科目	教育原理	1後			2						1	
	教職論	1後			1	1						
	教育制度論	1後			1						1	
	教育心理学	1後			2						1	
	特別支援教育	3前			1						1	
	教育課程論	3前			1						1	
	小計(6科目)		0	0	8	1	0	0	0	0	5	
	道徳教育の理論と方法	3前			1						1	
	特別活動及び総合的な学習の指導法	3前			1						1	
	教育の方法と技術	3前			2	1		1				
生徒指導	3前			1						1		
教育相談	3前			1						1		
小計(5科目)		0	0	6	1	0	0	1	0	3		
教育実践に関する科目	事前及び事後指導(養護)	4通			1		1					
	養護実習	4通			2		1					
	教職インターンシップ	3後~4前			2		1					
	教職実践演習(養護教諭)	4後			2		1					
小計(4科目)		0	0	7	0	1	0	0	0	0		
合計(148科目)		182	57	29	13	4	8	4	9	48		

卒業要件及び履修方法

1. 共通教育科目(計28単位以上)

- (1)宗教と人間 必修4単位
- (2)社会と人間 必修4単位
- (3)表現・行動と人間
くらしと色彩、人と音楽から1単位選択必修
- (4)情報と人間 必修5単位
- (5)言語・文化と人間 必修3単位
Reading II、Process Writing、時事英語、医療英語、フランス語Ⅰ、フランス語Ⅱ、異文化交流(海外語学研修)から3単位選択必修

上記以外に心理学、社会学、文化人類学(異文化理解)から1単位選択必修

2. 専門教育科目

- (1)専門基礎科目 必修28単位
- (2)専門科目 計76単位以上
 - ①看護の基盤 必修18単位
 - ②ライフサイクルと看護 必修32単位
 - ③コミュニティと看護 必修17単位

- ③「ニューアイと看護 必修17単位
- ④看護の発展 必修9単位
- 自由選択4単位は卒業要件に含まない。

以上、共通教育科目28単位以上、専門教育科目の内、専門基礎科目28単位以上、専門科目76単位以上、合計132単位以上

3. 養護教諭一種免許取得の場合

(1)卒業要件132単位に含める科目と単位

共通教育科目 28単位に下記の選択科目を含める
 選択科目「教育学概論Ⅰ」「セーフティプロモーション」「社会と人権(日本国憲法)」「体育講義」「スポーツと健康」「情報リテラシーⅡ」「ReadingⅡ」「Process Writing」「時事英語」の10単位

(2)卒業要件以外に取得する科目と単位

専門教育科目の内、
 専門基礎科目 選択科目「環境と健康」1単位
 専門科目 自由科目「学校保健」「養護学概説」4単位
 教職科目
 自由選択科目
 「教育原理」「教職論」「教育制度論」「教育心理学」「特別支援教育」「教育課程論」「道徳教育の理論と方法」「特別活動及び総合的な学習の指導法」「教育の方法と技術」「生徒指導」「教育相談」「教育実習事前事後指導」「教育実習(養護)」「教職インターンシップ」「教職実践演習(養護教諭)」21単位

以上、26単位と卒業要件132単位の合計158単位以上取得すること

4. 履修科目の登録の上限:49単位(年間)

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【令和4年度】

特になし

【令和5年度】

・ 講師就任辞退により、「フィジカルアセスメントⅡ」「臨床判断論」「ヒューマンケア実習Ⅰ」「ヒューマンケア実習Ⅱ」「生活機能支援論Ⅳ-①(老年)」「生活機能支援論Ⅳ-②(老年)」「生活機能支援論実習Ⅳ-①(老年)」「生活機能支援論実習Ⅳ-②(老年)」「地域包括ケア論実習Ⅰ(老年)」の専任教員配置を「講師」を1減じ、「准教授」を1増にそれぞれ変更。
 ・ 兼任講師の辞任により、「人体の構造と機能(解剖学)」を「兼任1」から「教授1」に変更。
 ・ 兼任講師の辞任により、「疾病治療論Ⅳ」を「兼任1」から「教授1」に変更。
 ・ 准教授就任辞退により、「フィジカルアセスメントⅡ」「生活機能支援論Ⅴ-①(精神)」「生活機能支援論Ⅴ-②(精神)」「生活機能支援論実習Ⅴ(精神)」の「准教授」を1減じ、「助教」を1増にそれぞれ変更。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
96 科目	35 科目	17 科目	148 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{148} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
	校舎敷地	9,773.00 m ²	2,028.96 m ²	11,317.00 m ²	23,118.96 m ²				
	運動場用地	0.00 m ²	12,679.66 m ²	0.00 m ²	12,679.66 m ²				
	小 計	9,773.00 m ²	14,708.62 m ²	11,317.00 m ²	35,798.62 m ²				
	そ の 他	63,478.00 m ²	492.98 m ²	0.00 m ²	63,970.98 m ²				
	合 計	73,251.00 m ²	15,201.60 m ²	11,317.00 m ²	99,769.60 m ²				
(2) 校 舎		専 用 16,134.53 m ² (16,134.53 m ²)	共 用 9,954.23 m ² (9,954.23 m ²)	共用する他の学校等の専用 17,861.33 m ² (17,861.33 m ²)	計 43,950.09 m ² (43,950.09 m ²)				
(3) 教 室 等	講 義 室 27 室	演 習 室 演習室 32 ラーニングcommons*4 演習室 30 ラーニングcommons*3	実験実習室 6 室 9	情報処理学習施設 2 室 (補助職員 1人)	語学学習施設 1 室 (補助職員 一人)	大学全体 部屋数誤記訂正(4)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称 看護学部 看護学科			室 数 31 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	絶版、廃版、価格変更による設置計画時からの変更(4)	
	看護学部	47,467[2,792] 45,131[2,560] (47,186[2,542]) (44,850[2,435])	27 [4] (20 [0])	4 [0] (- [-])	1,067 (1,041)	1,350 (1,150)	150 (128)		
	計	47,467[2,792] 45,131[2,560] (47,186[2,542]) (44,850[2,435])	27 [4] (20 [0])	4 [0] (- [-])	1,067 (1,041)	1,350 (1,150)	150 (128)		
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数					
	2482.98 m ²	343		190,000					
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要			改修のため(5)				
	4556.13 m ²	フットサルコート(人工芝) テニスコート—2面			屋内25m ² -ル, 子ども用 ² -ル 各1面				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書購入費:絶版、廃版、価格変更による設置計画時からの変更(4) ※教授・准教授:250千円 講師・助教:200千円
		教員1人当り研究費等	250 千円	250 千円	図書購入費	2,110 2,003 千円	1,004 千円	0 千円	
	共同研究費等	2,000 千円	3,000 千円	設備購入費	11,699 千円	0 千円	0 千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,750 千円	1,700 千円	1,700 千円	1,700 千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入、補助金(私立大学等経費補助金)収入、資産運用収入、事業収入そして雑収入を充当する							

(注)・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和5年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(5)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	大阪信愛学院大学										平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数	1	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	1	収容定員充足率0.7倍以下の学科数	1	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	1
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考					
	年	人	年次人	人		倍	倍	倍	倍	年度	年度							
教育学部 教育学科	4	80	0	320	学士(教育学)	0.42	-	0.44	-	-	令和4	大阪府大阪市城東区古市2丁目7番30号						
看護学部 看護学科	4	80	0	320	学士(看護学)	1.19	-	1.18	-	-	令和4	同上						
大学全体	-	160	0	640	-	0.80	-	0.81	-	-	令和4	-						

大学の名称	大阪信愛学院短期大学										平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数		平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数		収容定員充足率0.7倍以下の学科数		収容定員充足率1.15倍以上の学科数	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考					
	年	人	年次人	人		倍	倍	倍	倍	年度	年度							
看護学科	3	80	-	80	短期大学士(看護学)	0.00	-	0.93	1.08	-	平成21	大阪府大阪市城東区古市2丁目7番30号	令和3年学生募集停止					
短期大学全体	3	80	-	240	-	-	-	-	-	-	-	-						

- (注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
 (様式のうち、記載する必要がない学校種は削除してください。)
- ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
 なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
 - ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 - ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合は、「-」としてください。
 - ・「平均入学定員超過率(控除後含む)」及び「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<看護学部 看護学科>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授(学 部長・R4 のみ)	岩澤 和子 (65) <令和4年4月> 看護学修士
		健康教育論※ 看護教育学Ⅰ※ 生涯発達看護論Ⅱ(小児)※ 地域包括ケア論Ⅰ(在宅)※ 地域包括ケア論Ⅲ(地域・学校)※ 地域包括ケア論Ⅳ(在宅)※ 地域包括ケア論実習Ⅲ-②(統合:地域) チーム医療論※ 看護マネジメント論Ⅰ※ キャリアデザインⅡ※ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ 看護政策論
専	教授(R5 年~副 学長・ 学部長)	遠藤 俊子 (69) <令和5年4月> 博士(医科学)
		看護理論※ 生涯発達看護論Ⅰ(母性)※ 生活機能支援論Ⅰ-①(母性)※ 生活機能支援論Ⅰ-②(母性) 生活機能支援論実習Ⅰ(母性) キャリアデザインⅡ※ 看護研究Ⅰ※ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	教授	深川 八郎 (72) <令和4年4月> 修士(教育学)
		教育学概論Ⅰ 教職論 教育の方法と技術※
専	教授	松井 幸子 (68) <令和5年4月> 修士(都市政策)
		フィジカルアセスメントⅡ※ 生活機能支援論Ⅲ-①(急性)※ 生活機能支援論Ⅲ-③(リハビリテーション)※ 生活機能支援論Ⅲ-④(急性)※ 生活機能支援論実習Ⅲ-①(急性) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ

【令和4年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授(学 部長・R4 のみ)	岩澤 和子 (66) <令和4年4月> 看護学修士
		健康教育論※ 看護教育学Ⅰ※ 生涯発達看護論Ⅱ(小児)※ 地域包括ケア論Ⅰ(在宅)※ 地域包括ケア論Ⅲ(地域・学校)※ 地域包括ケア論Ⅳ(在宅)※ 地域包括ケア論実習Ⅲ-②(統合:地域) チーム医療論※ 看護マネジメント論Ⅰ※ キャリアデザインⅡ※ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ 看護政策論
専	教授(R5 年~副 学長・ 学部長)	遠藤 俊子 (70) <令和5年4月> 博士(医科学)
		看護理論※ 生涯発達看護論Ⅰ(母性)※ 生活機能支援論Ⅰ-①(母性)※ 生活機能支援論Ⅰ-②(母性) 生活機能支援論実習Ⅰ(母性) キャリアデザインⅡ※ 看護研究Ⅰ※ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	教授	深川 八郎 (73) <令和4年4月> 修士(教育学)
		教育学概論Ⅰ 教職論 教育の方法と技術※
専	教授	松井 幸子 (69) <令和5年4月> 博士(保健学)
		フィジカルアセスメントⅡ※ 生活機能支援論Ⅲ-①(急性)※ 生活機能支援論Ⅲ-③(リハビリテーション)※ 生活機能支援論Ⅲ-④(急性)※ 生活機能支援論実習Ⅲ-①(急性) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ

【令和5年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授(学 部長・R4 のみ)	岩澤 和子 (67) <令和4年4月> 看護学修士
		健康教育論※ 看護教育学Ⅰ※ 生涯発達看護論Ⅱ(小児)※ 地域包括ケア論Ⅰ(在宅)※ 地域包括ケア論Ⅲ(地域・学校)※ 地域包括ケア論Ⅳ(在宅)※ 地域包括ケア論実習Ⅲ-②(統合:地域) チーム医療論※ 看護マネジメント論Ⅰ※ キャリアデザインⅡ※ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ 看護政策論
専	教授(R5 年~副 学長・ 学部長)	遠藤 俊子 (71) <令和5年4月> 博士(医科学)
		看護理論※ 生涯発達看護論Ⅰ(母性)※ 生活機能支援論Ⅰ-①(母性)※ 生活機能支援論Ⅰ-②(母性) 生活機能支援論実習Ⅰ(母性) キャリアデザインⅡ※ 看護研究Ⅰ※ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	教授	深川 八郎 (74) <令和4年4月> 修士(教育学)
		教育学概論Ⅰ 教職論 教育の方法と技術※
専	教授	松井 幸子 (70) <令和5年4月> 博士(保健学)
		フィジカルアセスメントⅡ※ 生活機能支援論Ⅲ-①(急性)※ 生活機能支援論Ⅲ-③(リハビリテーション)※ 生活機能支援論Ⅲ-④(急性)※ 生活機能支援論実習Ⅲ-①(急性) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	松尾 博哉 (65) <令和4年4月> 医学博士
		人体の構造と機能Ⅰ 人体の構造と機能Ⅱ 人体の構造と機能Ⅲ 生涯発達看護論Ⅰ(母性)※ 国際看護Ⅰ※ 災害看護Ⅰ※ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	教授	檜木野 裕美 (64) <令和4年4月> 博士(教育学)
		看護倫理※ 家族看護論 生涯発達看護論Ⅱ(小児)※ 生活機能支援論Ⅱ-①(小児)※ 生活機能支援論Ⅱ-②(小児)※ 生活機能支援論実習Ⅱ(小児) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	教授	上田 博之 (63) <令和4年4月> 博士(学術)
		基礎ゼミ 教養ゼミ 社会調査法※ データサイエンス 異文化交流(海外語学研修) 国際理解(カンボジア研修) 環境と健康※ 保健統計学 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	教授	松浦 正子 (62) <令和5年4月> 博士(看護管理学)
		地域包括ケア論実習Ⅲ-①(統合:管理) 看護マネジメント論Ⅰ※ 看護マネジメント論Ⅱ※ キャリアデザインⅡ※ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ 専門職論※
専	教授	吉田 智美 (60) <令和4年4月> 博士(看護学)
		看護倫理※ 看護理論※ 生活機能支援論Ⅲ-②(慢性)※ 生活機能支援論Ⅲ-⑤(慢性) 生活機能支援論実習Ⅲ-②(慢性) エンドオブライフケア論※ チーム医療論※ キャリアデザインⅡ※ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ 専門職論※
専	教授	竹中 泉 (59) <令和4年4月> 修士(学術)
		看護概論 基礎技術Ⅰ※ 基礎技術Ⅱ※ 看護教育学Ⅰ※ ヒューマンケア実習Ⅰ ヒューマンケア実習Ⅱ 国際看護Ⅰ※ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ 看護教育学Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	松尾 博哉 (66) <令和4年4月> 医学博士
		人体の構造と機能Ⅰ 人体の構造と機能Ⅱ 人体の構造と機能Ⅲ 生涯発達看護論Ⅰ(母性)※ 国際看護Ⅰ※ 災害看護Ⅰ※ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	教授	檜木野 裕美 (65) <令和4年4月> 博士(教育学)
		看護倫理※ 家族看護論 生涯発達看護論Ⅱ(小児)※ 生活機能支援論Ⅱ-①(小児)※ 生活機能支援論Ⅱ-②(小児)※ 生活機能支援論実習Ⅱ(小児) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	教授	上田 博之 (64) <令和4年4月> 博士(学術)
		基礎ゼミ 教養ゼミ 社会調査法※ データサイエンス 異文化交流(海外語学研修) 国際理解(カンボジア研修) 環境と健康※ 保健統計学 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	教授	松浦 正子 (63) <令和5年4月> 博士(看護管理学)
		地域包括ケア論実習Ⅲ-①(統合:管理) 看護マネジメント論Ⅰ※ 看護マネジメント論Ⅱ※ キャリアデザインⅡ※ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ 専門職論※
専	教授	吉田 智美 (61) <令和4年4月> 博士(看護学)
		看護倫理※ 看護理論※ 生活機能支援論Ⅲ-②(慢性)※ 生活機能支援論Ⅲ-⑤(慢性) 生活機能支援論実習Ⅲ-②(慢性) エンドオブライフケア論※ チーム医療論※ キャリアデザインⅡ※ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ 専門職論※
専	教授	竹中 泉 (60) <令和4年4月> 修士(学術)
		看護概論 基礎技術Ⅰ※ 基礎技術Ⅱ※ 看護教育学Ⅰ※ ヒューマンケア実習Ⅰ ヒューマンケア実習Ⅱ 国際看護Ⅰ※ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ 看護教育学Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	松尾 博哉 (67) <令和4年4月> 医学博士
		人体の構造と機能(解剖学) 人体の構造と機能Ⅰ 人体の構造と機能Ⅱ 人体の構造と機能Ⅲ 疾病治療論Ⅳ 生涯発達看護論Ⅰ(母性)※ 国際看護Ⅰ※ 災害看護Ⅰ※ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	教授	檜木野 裕美 (66) <令和4年4月> 博士(教育学)
		看護倫理※ 家族看護論 生涯発達看護論Ⅱ(小児)※ 生活機能支援論Ⅱ-①(小児)※ 生活機能支援論Ⅱ-②(小児)※ 生活機能支援論実習Ⅱ(小児) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	教授	上田 博之 (65) <令和4年4月> 博士(学術)
		基礎ゼミ 教養ゼミ 社会調査法※ データサイエンス 異文化交流(海外語学研修) 国際理解(カンボジア研修) 環境と健康※ 保健統計学 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	教授	松浦 正子 (64) <令和5年4月> 博士(看護管理学)
		地域包括ケア論実習Ⅲ-①(統合:管理) 看護マネジメント論Ⅰ※ 看護マネジメント論Ⅱ※ キャリアデザインⅡ※ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ 専門職論※
専	教授	吉田 智美 (62) <令和4年4月> 博士(看護学)
		看護倫理※ 看護理論※ 生活機能支援論Ⅲ-②(慢性)※ 生活機能支援論Ⅲ-⑤(慢性) 生活機能支援論実習Ⅲ-②(慢性) エンドオブライフケア論※ チーム医療論※ キャリアデザインⅡ※ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ 専門職論※
専	教授	竹中 泉 (61) <令和4年4月> 修士(学術)
		看護概論 基礎技術Ⅰ※ 基礎技術Ⅱ※ 看護教育学Ⅰ※ ヒューマンケア実習Ⅰ ヒューマンケア実習Ⅱ 国際看護Ⅰ※ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ 看護教育学Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	長尾 匡子 (57) 博士(看護学) <令和4年4月>
		教養ゼミ フイジ カルアセメントⅡ※ 臨床判断論※ 生涯発達看護論Ⅳ(老年) 生活機能支援論Ⅳ-①(老年)※ 生活機能支援論Ⅳ-②(老年) 生活機能支援論実習Ⅳ-①(老年) 生活機能支援論実習Ⅳ-②(老年) 地域包括ケア論実習Ⅰ(老年) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	教授	西田 頼子 (48) 博士(医科学) <令和4年4月>
		生活機能論 フイジ カルアセメントⅠ※ フイジ カルアセメントⅡ※ 看護理論※ 臨床判断論※ 生涯発達看護論Ⅲ(成人) 生活機能支援論Ⅲ-②(慢性)※ 生活機能支援論Ⅲ-⑤(慢性) 生活機能支援論実習Ⅲ-②(慢性) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	教授	西村 美八 (47) <令和4年4月> 博士(医学)
		基礎ゼミ 教養ゼミ 健康教育論※ 社会健康学 ヒューマンケア実習Ⅰ 生活機能支援論実習Ⅳ-①(老年) 地域包括ケア論Ⅲ(地域・学校)※ 地域包括ケア論Ⅳ(在宅)※ 地域包括ケア論実習Ⅲ-②(統合:地域) 看護研究Ⅰ※ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	准教授	竹見 八代子 (66) <令和4年4月> 修士(看護学)
		基礎技術Ⅰ※ 基礎技術Ⅱ※ ヒューマンケア実習Ⅰ ヒューマンケア実習Ⅱ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	准教授	西垣 里志 (63) <令和5年4月> 博士(保健学)
		フイジ カルアセメントⅡ※ 生活機能支援論Ⅴ-①(精神)※ 生活機能支援論Ⅴ-②(精神) 生活機能支援論実習Ⅴ(精神) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	長尾 匡子 (58) 博士(看護学) <令和4年4月>
		教養ゼミ フイジ カルアセメントⅡ※ 臨床判断論※ 生涯発達看護論Ⅳ(老年) 生活機能支援論Ⅳ-①(老年)※ 生活機能支援論Ⅳ-②(老年) 生活機能支援論実習Ⅳ-①(老年) 生活機能支援論実習Ⅳ-②(老年) 地域包括ケア論実習Ⅰ(老年) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	教授	西田 頼子 (49) 博士(医科学) <令和4年4月>
		生活機能論 フイジ カルアセメントⅠ※ フイジ カルアセメントⅡ※ 看護理論※ 臨床判断論※ 生涯発達看護論Ⅲ(成人) 生活機能支援論Ⅲ-②(慢性)※ 生活機能支援論Ⅲ-⑤(慢性) 生活機能支援論実習Ⅲ-②(慢性) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	教授	西村 美八 (48) <令和4年4月> 博士(医学)
		基礎ゼミ 教養ゼミ 健康教育論※ 社会健康学 ヒューマンケア実習Ⅰ 生活機能支援論実習Ⅳ-①(老年) 地域包括ケア論Ⅲ(地域・学校)※ 地域包括ケア論Ⅳ(在宅)※ 地域包括ケア論実習Ⅲ-②(統合:地域) 看護研究Ⅰ※ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	准教授	竹見 八代子 (67) <令和4年4月> 修士(看護学)
		基礎技術Ⅰ※ 基礎技術Ⅱ※ ヒューマンケア実習Ⅰ ヒューマンケア実習Ⅱ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	准教授	西垣 里志 (64) <令和5年4月> 博士(保健学)
		フイジ カルアセメントⅡ※ 生活機能支援論Ⅴ-①(精神)※ 生活機能支援論Ⅴ-②(精神) 生活機能支援論実習Ⅴ(精神) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	長尾 匡子 (59) 博士(看護学) <令和4年4月>
		教養ゼミ フイジ カルアセメントⅡ※ 臨床判断論※ 生涯発達看護論Ⅳ(老年) 生活機能支援論Ⅳ-①(老年)※ 生活機能支援論Ⅳ-②(老年) 生活機能支援論実習Ⅳ-①(老年) 生活機能支援論実習Ⅳ-②(老年) 地域包括ケア論実習Ⅰ(老年) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	教授	西田 頼子 (50) 博士(医科学) <令和4年4月>
		生活機能論 フイジ カルアセメントⅠ※ フイジ カルアセメントⅡ※ 看護理論※ 臨床判断論※ 生涯発達看護論Ⅲ(成人) 生活機能支援論Ⅲ-②(慢性)※ 生活機能支援論Ⅲ-⑤(慢性) 生活機能支援論実習Ⅲ-②(慢性) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	教授	西村 美八 (49) <令和4年4月> 博士(医学)
		基礎ゼミ 教養ゼミ 健康教育論※ 社会健康学 ヒューマンケア実習Ⅰ 生活機能支援論実習Ⅳ-①(老年) 地域包括ケア論Ⅲ(地域・学校)※ 地域包括ケア論Ⅳ(在宅)※ 地域包括ケア論実習Ⅲ-②(統合:地域) 看護研究Ⅰ※ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	准教授	竹見 八代子 (68) <令和4年4月> 修士(看護学)
		基礎技術Ⅰ※ 基礎技術Ⅱ※ ヒューマンケア実習Ⅰ ヒューマンケア実習Ⅱ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	准教授	得居 みのり (56) <令和5年4月> 修士(看護学)
		基礎ゼミ 基礎技術Ⅰ※ 基礎技術Ⅱ※ フイジ カルアセメントⅡ※ 臨床判断論※ ヒューマンケア実習Ⅰ ヒューマンケア実習Ⅱ 生活機能支援論Ⅳ-①(老年)※ 生活機能支援論Ⅳ-②(老年) 生活機能支援論実習Ⅳ-①(老年) 生活機能支援論実習Ⅳ-②(老年) 地域包括ケア論実習Ⅰ(老年)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	徳珍 温子 (54) <令和6年4月> 修士(学術)
		キャリア入門 セーフティプロモーション 基礎技術Ⅱ※ キャリアデザインⅠ ヒューマン7実習Ⅰ ヒューマン7実習Ⅱ 生活機能支援論Ⅲ-③(リハビリテーション)※ 学校保健 養護学概説※ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ 看護研究Ⅳ 事前及び事後指導(養護) 養護実習 教職インターンシップ 教職実践演習(養護教諭)
兼任	講師	徳珍 温子 (54) <令和4年4月> 修士(学術)
		キャリア入門 セーフティプロモーション 基礎技術Ⅱ※ キャリアデザインⅠ ヒューマン7実習Ⅰ ヒューマン7実習Ⅱ
専	准教授	阪上 由美 (51) <令和4年4月> 修士(人間科学)
		サービスラーニング 教養ゼミ フィジカルアセスメントⅠ※ フィジカルアセスメントⅡ※ ヒューマン7実習Ⅰ 生活機能支援論Ⅱ-①(小児)※ 生活機能支援論実習Ⅳ-①(老年) 地域包括ケア論Ⅰ(在宅)※ 地域包括ケア論Ⅱ(在宅・地域)※ 地域包括ケア論Ⅳ(在宅)※ 地域包括ケア論実習Ⅱ(在宅) キャリアデザインⅡ※ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	講師	中野 幸子 (62) <令和6年4月> 修士(学術)
		フィジカルアセスメントⅡ※ 生涯発達看護論Ⅱ(小児)※ 生活機能支援論Ⅱ-①(小児)※ 生活機能支援論Ⅱ-②(小児)※ 生活機能支援論実習Ⅱ(小児) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
兼任	講師	中野 幸子 (61) <令和5年4月> 修士(学術)
		フィジカルアセスメントⅡ※ 生涯発達看護論Ⅱ(小児)※ 生活機能支援論Ⅱ-①(小児)※
専	講師	西山 史江 (60) <令和4年4月> 博士(看護学)
		基礎ゼミ 教養ゼミ ヒューマン7実習Ⅰ ヒューマン7実習Ⅱ 生活機能支援論実習Ⅳ-①(老年) 地域包括ケア論実習Ⅲ-①(統合:管理) チーム医療論※ 看護マネジメント論Ⅰ※ 看護マネジメント論Ⅱ※ 看護研究Ⅰ※ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	徳珍 温子 (55) <令和6年4月> 修士(学術)
		キャリア入門 セーフティプロモーション 基礎技術Ⅱ※ キャリアデザインⅠ ヒューマン7実習Ⅰ ヒューマン7実習Ⅱ 生活機能支援論Ⅲ-③(リハビリテーション)※ 学校保健 養護学概説※ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ 看護研究Ⅳ 事前及び事後指導(養護) 養護実習 教職インターンシップ 教職実践演習(養護教諭)
兼任	講師	徳珍 温子 (55) <令和4年4月> 修士(学術)
		キャリア入門 セーフティプロモーション 基礎技術Ⅱ※ キャリアデザインⅠ ヒューマン7実習Ⅰ ヒューマン7実習Ⅱ
専	准教授	阪上 由美 (52) <令和4年4月> 修士(人間科学)
		サービスラーニング 教養ゼミ フィジカルアセスメントⅠ※ フィジカルアセスメントⅡ※ ヒューマン7実習Ⅰ 生活機能支援論Ⅱ-①(小児)※ 生活機能支援論実習Ⅳ-①(老年) 地域包括ケア論Ⅰ(在宅)※ 地域包括ケア論Ⅱ(在宅・地域)※ 地域包括ケア論Ⅳ(在宅)※ 地域包括ケア論実習Ⅱ(在宅) キャリアデザインⅡ※ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	講師	中野 幸子 (63) <令和6年4月> 修士(学術)
		フィジカルアセスメントⅡ※ 生涯発達看護論Ⅱ(小児)※ 生活機能支援論Ⅱ-①(小児)※ 生活機能支援論Ⅱ-②(小児)※ 生活機能支援論実習Ⅱ(小児) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
兼任	講師	中野 幸子 (62) <令和5年4月> 修士(学術)
		フィジカルアセスメントⅡ※ 生涯発達看護論Ⅱ(小児)※ 生活機能支援論Ⅱ-①(小児)※
専	講師	西山 史江 (61) <令和4年4月> 博士(看護学)
		基礎ゼミ 教養ゼミ ヒューマン7実習Ⅰ ヒューマン7実習Ⅱ 生活機能支援論実習Ⅳ-①(老年) 地域包括ケア論実習Ⅲ-①(統合:管理) チーム医療論※ 看護マネジメント論Ⅰ※ 看護マネジメント論Ⅱ※ 看護研究Ⅰ※ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	徳珍 温子 (56) <令和6年4月> 修士(学術)
		キャリア入門 セーフティプロモーション 基礎技術Ⅱ※ キャリアデザインⅠ ヒューマン7実習Ⅰ ヒューマン7実習Ⅱ 生活機能支援論Ⅲ-③(リハビリテーション)※ 学校保健 養護学概説※ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ 看護研究Ⅳ 事前及び事後指導(養護) 養護実習 教職インターンシップ 教職実践演習(養護教諭)
兼任	講師	徳珍 温子 (56) <令和4年4月> 修士(学術)
		キャリア入門 セーフティプロモーション 基礎技術Ⅱ※ キャリアデザインⅠ ヒューマン7実習Ⅰ ヒューマン7実習Ⅱ
専	准教授	阪上 由美 (53) <令和4年4月> 修士(人間科学)
		サービスラーニング 教養ゼミ フィジカルアセスメントⅠ※ フィジカルアセスメントⅡ※ ヒューマン7実習Ⅰ 生活機能支援論Ⅱ-①(小児)※ 生活機能支援論実習Ⅳ-①(老年) 地域包括ケア論Ⅰ(在宅)※ 地域包括ケア論Ⅱ(在宅・地域)※ 地域包括ケア論Ⅳ(在宅)※ 地域包括ケア論実習Ⅱ(在宅) キャリアデザインⅡ※ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	講師	中野 幸子 (64) <令和6年4月> 修士(学術)
		フィジカルアセスメントⅡ※ 生涯発達看護論Ⅱ(小児)※ 生活機能支援論Ⅱ-①(小児)※ 生活機能支援論Ⅱ-②(小児)※ 生活機能支援論実習Ⅱ(小児) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
兼任	講師	中野 幸子 (63) <令和5年4月> 修士(学術)
		フィジカルアセスメントⅡ※ 生涯発達看護論Ⅱ(小児)※ 生活機能支援論Ⅱ-①(小児)※
専	講師	西山 史江 (62) <令和4年4月> 博士(看護学)
		基礎ゼミ 教養ゼミ ヒューマン7実習Ⅰ ヒューマン7実習Ⅱ 生活機能支援論実習Ⅳ-①(老年) 地域包括ケア論実習Ⅲ-①(統合:管理) チーム医療論※ 看護マネジメント論Ⅰ※ 看護マネジメント論Ⅱ※ 看護研究Ⅰ※ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	郷司 律子 (58) <令和4年4月> 博士(人間科学)
		サービスラーニング フィジカルアセスメントⅡ※ ヒューマンケア実習Ⅰ ヒューマンケア実習Ⅱ 生涯発達看護論Ⅰ(母性)※ 生活機能支援論Ⅰ-①(母性)※ 生活機能支援論Ⅰ-②(母性) 生活機能支援論実習Ⅰ(母性) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	講師	有田 弥棋子 (51) <令和4年4月> 修士(医療安全管理学)
		基礎ゼミ 基礎技術Ⅰ※ 基礎技術Ⅱ※ フィジカルアセスメントⅡ※ 臨床判断論※ ヒューマンケア実習Ⅰ ヒューマンケア実習Ⅱ 生活機能支援論Ⅳ-①(老年)※ 生活機能支援論Ⅳ-②(老年) 生活機能支援論実習Ⅳ-①(老年) 生活機能支援論実習Ⅳ-②(老年) 地域包括ケア論実習Ⅰ(老年)
専	講師	藤井 知美 (50) <令和5年4月> 修士(看護学)
		異文化交流(海外語学研修) 国際理解(カンボジア研修) ヒューマンケア実習Ⅰ ヒューマンケア実習Ⅱ 生活機能支援論実習Ⅳ-①(老年) 国際看護Ⅰ※ 国際看護Ⅱ 災害看護Ⅰ※ 災害看護Ⅱ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	講師	美王 真紀 (47) <令和4年4月> 保健学修士
		ヒューマンケア実習Ⅰ ヒューマンケア実習Ⅱ メンタルヘルス・アセスメント※ 生活機能支援論Ⅴ-②(精神) 生活機能支援論実習Ⅴ(精神) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	講師	岡崎 裕子 (47) 修士(看護学) <令和4年4月>
		サービスラーニング フィジカルアセスメントⅡ※ 生活機能支援論Ⅱ-①(小児)※ 生活機能支援論Ⅱ-②(小児) 生活機能支援論実習Ⅱ(小児) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	講師	秋山 正子 (46) <令和4年4月> 修士(保健学)
		基礎技術Ⅰ※ 基礎技術Ⅱ※ ヒューマンケア実習Ⅰ ヒューマンケア実習Ⅱ 生活機能支援論実習Ⅳ-①(老年) エンドオブライフケア論※ 地域包括ケア論Ⅱ(在宅・地域)※ 地域包括ケア論Ⅳ(在宅)※ 地域包括ケア論実習Ⅱ(在宅) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	郷司 律子 (59) <令和4年4月> 博士(人間科学)
		サービスラーニング フィジカルアセスメントⅡ※ ヒューマンケア実習Ⅰ ヒューマンケア実習Ⅱ 生涯発達看護論Ⅰ(母性)※ 生活機能支援論Ⅰ-①(母性)※ 生活機能支援論Ⅰ-②(母性) 生活機能支援論実習Ⅰ(母性) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	講師	藤井 知美 (51) <令和5年4月> 修士(看護学)
		異文化交流(海外語学研修) 国際理解(カンボジア研修) ヒューマンケア実習Ⅰ ヒューマンケア実習Ⅱ 生活機能支援論実習Ⅳ-①(老年) 国際看護Ⅰ※ 国際看護Ⅱ 災害看護Ⅰ※ 災害看護Ⅱ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	講師	美王 真紀 (48) <令和4年4月> 保健学修士
		ヒューマンケア実習Ⅰ ヒューマンケア実習Ⅱ メンタルヘルス・アセスメント※ 生活機能支援論Ⅴ-②(精神) 生活機能支援論実習Ⅴ(精神) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	講師	岡崎 裕子 (48) 修士(看護学) <令和4年4月>
		サービスラーニング フィジカルアセスメントⅡ※ 生活機能支援論Ⅱ-①(小児)※ 生活機能支援論Ⅱ-②(小児) 生活機能支援論実習Ⅱ(小児) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	講師	秋山 正子 (47) <令和4年4月> 修士(保健学)
		基礎技術Ⅰ※ 基礎技術Ⅱ※ ヒューマンケア実習Ⅰ ヒューマンケア実習Ⅱ 生活機能支援論実習Ⅳ-①(老年) エンドオブライフケア論※ 地域包括ケア論Ⅱ(在宅・地域)※ 地域包括ケア論Ⅳ(在宅)※ 地域包括ケア論実習Ⅱ(在宅) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	郷司 律子 (60) <令和4年4月> 博士(人間科学)
		サービスラーニング フィジカルアセスメントⅡ※ ヒューマンケア実習Ⅰ ヒューマンケア実習Ⅱ 生涯発達看護論Ⅰ(母性)※ 生活機能支援論Ⅰ-①(母性)※ 生活機能支援論Ⅰ-②(母性) 生活機能支援論実習Ⅰ(母性) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	講師	藤井 知美 (52) <令和5年4月> 修士(看護学)
		異文化交流(海外語学研修) 国際理解(カンボジア研修) ヒューマンケア実習Ⅰ ヒューマンケア実習Ⅱ 生活機能支援論実習Ⅳ-①(老年) 国際看護Ⅰ※ 国際看護Ⅱ 災害看護Ⅰ※ 災害看護Ⅱ 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	講師	美王 真紀 (49) <令和4年4月> 保健学修士
		ヒューマンケア実習Ⅰ ヒューマンケア実習Ⅱ メンタルヘルス・アセスメント※ 生活機能支援論Ⅴ-②(精神) 生活機能支援論実習Ⅴ(精神) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	講師	岡崎 裕子 (49) 修士(看護学) <令和4年4月>
		サービスラーニング フィジカルアセスメントⅡ※ 生活機能支援論Ⅱ-①(小児)※ 生活機能支援論Ⅱ-②(小児) 生活機能支援論実習Ⅱ(小児) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
専	講師	秋山 正子 (48) <令和4年4月> 修士(保健学)
		基礎技術Ⅰ※ 基礎技術Ⅱ※ ヒューマンケア実習Ⅰ ヒューマンケア実習Ⅱ 生活機能支援論実習Ⅳ-①(老年) エンドオブライフケア論※ 地域包括ケア論Ⅱ(在宅・地域)※ 地域包括ケア論Ⅳ(在宅)※ 地域包括ケア論実習Ⅱ(在宅) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	高橋 篤信 (39) ＜令和4年4月＞ 修士(看護学)
		サービスラーニング 基礎ゼミ フィジカルアセスメントⅡ※ ヒューマンケア実習Ⅰ ヒューマンケア実習Ⅱ メンタルヘルス・アセスメント※ 生活機能支援論Ⅴ-①(精神)※ 生活機能支援論Ⅴ-②(精神)※ 生活機能支援論実習Ⅴ(精神)
専	助教	南 裕美 (53) ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		基礎技術Ⅰ※ 基礎技術Ⅱ※ フィジカルアセスメントⅠ※ フィジカルアセスメントⅡ※ 臨床判断論※ ヒューマンケア実習Ⅰ ヒューマンケア実習Ⅱ 生活機能支援論実習Ⅳ-①(老年)
専	助教	井内 伸栄 (45) ＜令和4年4月＞ 修士(学術)
		サービスラーニング 社会調査法※ 情報倫理※ 情報リテラシーⅠ※ 情報リテラシーⅡ※ 教育の方法と技術※
専	助教	中村 千賀 (43) ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		地域包括ケア論Ⅱ(在宅・地域)※ 地域包括ケア論Ⅳ(在宅)※ 地域包括ケア論実習Ⅱ(在宅)
専	助教	桑原 唯 (34) ＜令和5年4月＞ 修士(看護学)
		ヒューマンケア実習Ⅱ 生活機能支援論Ⅲ-①(急性)※ 生活機能支援論Ⅲ-②(慢性)※ 生活機能支援論Ⅲ-③(リハビリテーション)※ 生活機能支援論Ⅲ-④(急性)※ 生活機能支援論Ⅲ-⑤(慢性)※ 生活機能支援論実習Ⅲ-①(急性) 生活機能支援論実習Ⅲ-②(慢性)
兼任	講師	船寄 俊雄 (64) ＜令和4年4月＞ 博士(教育学)
		教養ゼミ 教育原理
兼任	講師	智原 正行 (74) ＜令和6年4月＞ 教育学士
		特別支援教育
兼任	講師	梅野 圭史 (66) ＜令和4年4月＞ 博士(体育科学)
		体育講義※
兼任	講師	高井 明德 (65) ＜令和5年4月＞ 理学博士
		ライフサイエンス 生活と化学 教養ゼミ 生化学 微生物学・免疫学 生命科学 環境と健康※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	高橋 篤信 (40) ＜令和4年4月＞ 修士(看護学)
		サービスラーニング 基礎ゼミ フィジカルアセスメントⅡ※ ヒューマンケア実習Ⅰ ヒューマンケア実習Ⅱ メンタルヘルス・アセスメント※ 生活機能支援論Ⅴ-①(精神)※ 生活機能支援論Ⅴ-②(精神)※ 生活機能支援論実習Ⅴ(精神)
専	助教	南 裕美 (54) ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		基礎技術Ⅰ※ 基礎技術Ⅱ※ フィジカルアセスメントⅠ※ フィジカルアセスメントⅡ※ 臨床判断論※ ヒューマンケア実習Ⅰ ヒューマンケア実習Ⅱ 生活機能支援論実習Ⅳ-①(老年)
専	助教	井内 伸栄 (46) ＜令和4年4月＞ 修士(学術)
		サービスラーニング 社会調査法※ 情報倫理※ 情報リテラシーⅠ※ 情報リテラシーⅡ※ 教育の方法と技術※
専	助教	中村 千賀 (44) ＜令和5年4月＞ 修士(教育学)
		地域包括ケア論Ⅱ(在宅・地域)※ 地域包括ケア論Ⅳ(在宅)※ 地域包括ケア論実習Ⅱ(在宅)
専	助教	桑原 唯 (35) ＜令和5年4月＞ 修士(看護学)
		ヒューマンケア実習Ⅱ 生活機能支援論Ⅲ-①(急性)※ 生活機能支援論Ⅲ-②(慢性)※ 生活機能支援論Ⅲ-③(リハビリテーション)※ 生活機能支援論Ⅲ-④(急性)※ 生活機能支援論Ⅲ-⑤(慢性)※ 生活機能支援論実習Ⅲ-①(急性) 生活機能支援論実習Ⅲ-②(慢性)
兼任	講師	船寄 俊雄 (65) ＜令和4年4月＞ 博士(教育学)
		教養ゼミ 教育原理
兼任	講師	智原 正行 (75) ＜令和6年4月＞ 教育学士
		特別支援教育
兼任	講師	梅野 圭史 (67) ＜令和4年4月＞ 博士(体育科学)
		体育講義※
兼任	講師	高井 明德 (66) ＜令和5年4月＞ 理学博士
		ライフサイエンス 生活と化学 教養ゼミ 生化学 微生物学・免疫学 生命科学 環境と健康※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	高橋 篤信 (41) ＜令和4年4月＞ 修士(看護学)
		サービスラーニング 基礎ゼミ フィジカルアセスメントⅡ※ ヒューマンケア実習Ⅰ ヒューマンケア実習Ⅱ メンタルヘルス・アセスメント※ 生活機能支援論Ⅴ-①(精神)※ 生活機能支援論Ⅴ-②(精神)※ 生活機能支援論実習Ⅴ(精神)
専	助教	南 裕美 (55) ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		基礎技術Ⅰ※ 基礎技術Ⅱ※ フィジカルアセスメントⅠ※ フィジカルアセスメントⅡ※ 臨床判断論※ ヒューマンケア実習Ⅰ ヒューマンケア実習Ⅱ 生活機能支援論実習Ⅳ-①(老年)
専	助教	井内 伸栄 (47) ＜令和4年4月＞ 修士(学術)
		サービスラーニング 社会調査法※ 情報倫理※ 情報リテラシーⅠ※ 情報リテラシーⅡ※ 教育の方法と技術※
専	助教	中村 千賀 (45) ＜令和5年4月＞ 修士(教育学)
		地域包括ケア論Ⅱ(在宅・地域)※ 地域包括ケア論Ⅳ(在宅)※ 地域包括ケア論実習Ⅱ(在宅)
専	助教	松村 麻衣子 (44) ＜令和5年4月＞ 修士(看護学)
		フィジカルアセスメントⅡ※ 生活機能支援論Ⅴ-①(精神)※ 生活機能支援論Ⅴ-②(精神)※ 生活機能支援論実習Ⅴ(精神) 看護研究Ⅱ 看護研究Ⅲ 看護研究Ⅳ
兼任	講師	船寄 俊雄 (66) ＜令和4年4月＞ 博士(教育学)
		教養ゼミ 教育原理
兼任	講師	梅野 圭史 (68) ＜令和4年4月＞ 博士(体育科学)
		体育講義※
兼任	講師	高井 明德 (67) ＜令和5年4月＞ 理学博士
		ライフサイエンス 生活と化学 教養ゼミ 生化学 微生物学・免疫学 生命科学 環境と健康※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	高井 明德 (65) ＜令和4年4月＞ 理学博士
		ライフサイエンス 生活と化学 教養ゼミ 生化学 微生物学・免疫学 生命科学
兼任	講師	齊藤 誠一 (64) ＜令和4年4月＞ 教育学修士(心理学)
		心理学 基礎ゼミ 心のしくみと働き 発達心理学 教育心理学 教育相談
兼任	講師	足高 吉夫 (61) ＜令和4年4月＞ 社会学修士
		社会学 サービスラーニング 文章表現※ 基礎ゼミ 教養ゼミ 社会調査法※
兼任	講師	市川 隆司 (60) ＜令和4年4月＞ 文学士
		教養ゼミ 情報倫理※ 情報リテラシーⅠ※ 情報リテラシーⅡ※
兼任	講師	BUNYAN, Alan Anthony (59) ＜令和4年4月＞ Master of Arts in Modern (修士)(英国)
		Speaking & Listening 異文化交流(海外語学研修) 国際理解(カンボジア研修)
兼任	講師	佐久 正秀 (55) ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		Writing Reading I Reading II Process Writing 時事英語 異文化交流(海外語学研修) 国際理解(カンボジア研修)
兼任	講師	金井 秋彦 (55) ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		人と音楽 基礎ゼミ
兼任	講師	廣森 直子 (46) ＜令和4年4月＞ 博士(教育学)
		ジェンダー論 教養ゼミ 家族社会学
兼任	講師	芝(中山) 誠貴 (51) ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		サービスラーニング キャリア入門 基礎ゼミ
兼任	講師	荒木 雅之 (35) ＜令和4年4月＞ 修士(スポーツ健康科学)
		サービスラーニング 体育講義※ スポーツと健康
兼任	講師	谷原(西田) 舞 (35) ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		サービスラーニング 文章表現※ 基礎ゼミ 異文化交流(海外語学研修)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	高井 明德 (66) ＜令和4年4月＞ 理学博士
		ライフサイエンス 生活と化学 教養ゼミ 生化学 微生物学・免疫学 生命科学
兼任	講師	齊藤 誠一 (65) ＜令和4年4月＞ 教育学修士(心理学)
		心理学 基礎ゼミ 心のしくみと働き 発達心理学 教育心理学 教育相談
兼任	講師	足高 吉夫 (62) ＜令和4年4月＞ 社会学修士
		社会学 サービスラーニング 文章表現※ 基礎ゼミ 教養ゼミ 社会調査法※
兼任	講師	市川 隆司 (61) ＜令和4年4月＞ 文学士
		教養ゼミ 情報倫理※ 情報リテラシーⅠ※ 情報リテラシーⅡ※
兼任	講師	BUNYAN, Alan Anthony (60) ＜令和4年4月＞ Master of Arts in Modern (修士)(英国)
		Speaking & Listening 異文化交流(海外語学研修) 国際理解(カンボジア研修)
兼任	講師	佐久 正秀 (56) ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		Writing Reading I Reading II Process Writing 時事英語 異文化交流(海外語学研修) 国際理解(カンボジア研修)
兼任	講師	金井 秋彦 (56) ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		人と音楽 基礎ゼミ
兼任	講師	廣森 直子 (47) ＜令和4年4月＞ 博士(教育学)
		ジェンダー論 教養ゼミ 家族社会学
兼任	講師	芝(中山) 誠貴 (52) ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		サービスラーニング キャリア入門 基礎ゼミ
兼任	講師	荒木 雅之 (36) ＜令和4年4月＞ 修士(スポーツ健康科学)
		サービスラーニング 体育講義※ スポーツと健康
兼任	講師	谷原(西田) 舞 (36) ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		サービスラーニング 文章表現※ 基礎ゼミ 異文化交流(海外語学研修)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	齊藤 誠一 (66) ＜令和4年4月＞ 教育学修士(心理学)
		心理学 基礎ゼミ 心のしくみと働き 発達心理学 教育心理学 教育相談
兼任	講師	足高 吉夫 (63) ＜令和4年4月＞ 社会学修士
		社会学 サービスラーニング 文章表現※ 基礎ゼミ 教養ゼミ 社会調査法※
兼任	講師	市川 隆司 (62) ＜令和4年4月＞ 文学士
		教養ゼミ 情報倫理※ 情報リテラシーⅠ※ 情報リテラシーⅡ※
兼任	講師	BUNYAN, Alan Anthony (61) ＜令和4年4月＞ Master of Arts in Modern (修士)(英国)
		Speaking & Listening 異文化交流(海外語学研修) 国際理解(カンボジア研修)
兼任	講師	佐久 正秀 (57) ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		Writing Reading I Reading II Process Writing 時事英語 異文化交流(海外語学研修) 国際理解(カンボジア研修)
兼任	講師	金井 秋彦 (57) ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		人と音楽 基礎ゼミ
兼任	講師	廣森 直子 (48) ＜令和4年4月＞ 博士(教育学)
		ジェンダー論 教養ゼミ 家族社会学
兼任	講師	芝(中山) 誠貴 (53) ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		サービスラーニング キャリア入門 基礎ゼミ
兼任	講師	荒木 雅之 (37) ＜令和4年4月＞ 修士(スポーツ健康科学)
		サービスラーニング 体育講義※ スポーツと健康
兼任	講師	谷原(西田) 舞 (37) ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		サービスラーニング 文章表現※ 基礎ゼミ 異文化交流(海外語学研修)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	東本 康栄 (47) ＜令和4年4月＞ 学士(芸術)
		サービスラーニング くらしと色彩
兼任	講師	三戸 秀樹 (77) ＜令和4年4月＞ 修士(文学)
		社会心理学
兼任	講師	松島 哲久 (73) ＜令和4年4月＞ 修士(文学)
		生命倫理 医療倫理
兼任	講師	久保 富三夫 (73) ＜令和4年4月＞ 博士(学術)
		教育制度論
兼任	講師	藤田 修三 (69) ＜令和5年4月＞ 博士(栄養学)
		栄養学
兼任	講師	津田 右子 (69) ＜令和5年4月＞ 修士(看護学)
		看護理論※
兼任	講師	西本 泰久 (69) ＜令和5年4月＞ 博士(医学)
		疾病治療論Ⅱ
兼任	講師	久保山 一敏 (68) ＜令和5年4月＞ 博士(医学)
		疾病治療論Ⅲ
兼任	講師	梅田 勝 (66) ＜令和5年4月＞ 博士(医学)
		公衆衛生学(疫学)
兼任	講師	毛利 豊和 (65) ＜令和6年4月＞ 教育学士
		道徳教育の理論と方法
兼任	講師	大橋 一友 (65) ＜令和5年4月＞ 博士(医学)
		疾病治療論Ⅳ
兼任	講師	岩井 佳子 (62) ＜令和7年4月＞ 修士(児童学)
		音楽療法入門
兼任	講師	井野崎 千代子 (61) ＜令和4年4月＞ 文学修士/哲学修士/中世学修士
		Reading I Reading II
兼任	講師	坂本 憲弘 (61) ＜令和5年4月＞ 博士(医学)
		病理学
兼任	講師	伊東 美佐江 (58) ＜令和5年4月＞ 博士(医学)
		クリティカル・シンキング

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	東本 康栄 (48) ＜令和4年4月＞ 学士(芸術)
		サービスラーニング くらしと色彩
兼任	講師	三戸 秀樹 (78) ＜令和4年4月＞ 修士(文学)
		社会心理学
兼任	講師	松島 哲久 (74) ＜令和4年4月＞ 修士(文学)
		生命倫理 医療倫理
兼任	講師	久保 富三夫 (74) ＜令和4年4月＞ 博士(学術)
		教育制度論
兼任	講師	藤田 修三 (70) ＜令和5年4月＞ 博士(栄養学)
		栄養学
兼任	講師	津田 右子 (70) ＜令和5年4月＞ 修士(看護学)
		看護理論※
兼任	講師	西本 泰久 (70) ＜令和5年4月＞ 博士(医学)
		疾病治療論Ⅱ
兼任	講師	久保山 一敏 (69) ＜令和5年4月＞ 博士(医学)
		疾病治療論Ⅲ
兼任	講師	梅田 勝 (67) ＜令和5年4月＞ 博士(医学)
		公衆衛生学(疫学)
兼任	講師	毛利 豊和 (66) ＜令和6年4月＞ 教育学士
		道徳教育の理論と方法
兼任	講師	大橋 一友 (65) ＜令和5年4月＞ 博士(医学)
		疾病治療論Ⅳ
兼任	講師	岩井 佳子 (63) ＜令和7年4月＞ 修士(児童学)
		音楽療法入門
兼任	講師	Md Atikur Rahman (30) ＜令和4年4月＞ 博士(学術)
		Reading I Reading II
兼任	講師	坂本 憲弘 (62) ＜令和5年4月＞ 博士(医学)
		病理学
兼任	講師	伊東 美佐江 (59) ＜令和5年4月＞ 博士(医学)
		クリティカル・シンキング

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	東本 康栄 (49) ＜令和4年4月＞ 学士(芸術)
		サービスラーニング くらしと色彩
兼任	講師	大野 太郎 (68) ＜令和5年4月＞ 博士(人間科学)
		社会心理学
兼任	講師	松島 哲久 (75) ＜令和4年4月＞ 修士(文学)
		生命倫理 医療倫理
兼任	講師	久保 富三夫 (75) ＜令和4年4月＞ 博士(学術)
		教育制度論
兼任	講師	藤田 修三 (71) ＜令和5年4月＞ 博士(栄養学)
		栄養学
兼任	講師	津田 右子 (71) ＜令和5年4月＞ 修士(看護学)
		看護理論※
兼任	講師	西本 泰久 (71) ＜令和5年4月＞ 博士(医学)
		疾病治療論Ⅱ
兼任	講師	久保山 一敏 (70) ＜令和5年4月＞ 博士(医学)
		疾病治療論Ⅲ
兼任	講師	梅田 勝 (68) ＜令和5年4月＞ 博士(医学)
		公衆衛生学(疫学)
兼任	講師	毛利 豊和 (67) ＜令和6年4月＞ 教育学士
		道徳教育の理論と方法
兼任	講師	岩井 佳子 (64) ＜令和7年4月＞ 修士(児童学)
		音楽療法入門
兼任	講師	鄭 京淑 (66) ＜令和4年10月＞ 修士(英語教育)
		Reading I Reading II
兼任	講師	坂本 憲弘 (63) ＜令和5年4月＞ 博士(医学)
		病理学
兼任	講師	伊東 美佐江 (60) ＜令和5年4月＞ 博士(医学)
		クリティカル・シンキング

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	尾崎 千晶 (57) ＜令和4年4月＞ 修士(英語学) Writing Reading II
兼任	講師	小林 将元 (56) ＜令和5年4月＞ 学士(保健体育) メンタルヘルス・プロモーション
兼任	講師	田中 春香 (55) 学士(文学) ＜令和6年4月＞ 医療英語
兼任	講師	津田 泰宏 (53) ＜令和4年4月＞ 博士(医学) 疾病治療論 I
兼任	講師	寺田 裕美子 (52) ＜令和7年4月＞ 修士(学術) 園芸療法入門
兼任	講師	木村 智子 (50) ＜令和4年4月＞ 博士(医学) 人体の構造と機能(解剖学)
兼任	講師	小野 聡子 (50) ＜令和5年4月＞ 修士(保健看護学) クリティカル・シンキング
兼任	講師	小野 晃正 (49) ＜令和4年4月＞ 博士(法学) 社会と人権(日本国憲法)
兼任	講師	山本 美輪 (49) ＜令和5年4月＞ 博士(看護学) 生活機能支援論Ⅳ－①(老年)※
兼任	講師	山口 悦司 (49) ＜令和6年4月＞ 博士(学術) 教育課程論
兼任	講師	Henriques de Lima Nuno Alexandre (48) ＜令和7年4月＞ 神学博士 宗教論
兼任	講師	川地 亜弥子 (47) ＜令和6年4月＞ 博士(教育学) 特別活動及び総合的な学習の指導法 生徒指導
兼任	講師	宮本 智子 (46) ＜令和4年4月＞ 修士(神学) キリスト教と人間 現代とキリスト教 人間論(哲学)
兼任	講師	Poppon Emmanuel (42) ＜令和4年4月＞ 学士(神学) フランス語 I フランス語 II
兼任	講師	石川 大輔 (41) ＜令和6年4月＞ 修士(人間環境学) 生活機能支援論Ⅲ－③(リハビリテーション)※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	尾崎 千晶 (58) ＜令和4年4月＞ 修士(英語学) Writing Reading II
兼任	講師	小林 将元 (57) ＜令和5年4月＞ 学士(保健体育) メンタルヘルス・プロモーション
兼任	講師	田中 春香 (56) 学士(文学) ＜令和6年4月＞ 医療英語
兼任	講師	津田 泰宏 (54) ＜令和4年4月＞ 博士(医学) 疾病治療論 I
兼任	講師	寺田 裕美子 (53) ＜令和7年4月＞ 修士(学術) 園芸療法入門
兼任	講師	木村 智子 (51) ＜令和4年4月＞ 博士(医学) 人体の構造と機能(解剖学)
兼任	講師	小野 聡子 (51) ＜令和5年4月＞ 修士(保健看護学) クリティカル・シンキング
兼任	講師	小野 晃正 (50) ＜令和4年4月＞ 博士(法学) 社会と人権(日本国憲法)
兼任	講師	山本 美輪 (50) ＜令和5年4月＞ 博士(看護学) 生活機能支援論Ⅳ－①(老年)※
兼任	講師	山口 悦司 (50) ＜令和6年4月＞ 博士(学術) 教育課程論
兼任	講師	Henriques de Lima Nuno Alexandre (49) ＜令和7年4月＞ 神学博士 宗教論
兼任	講師	川地 亜弥子 (48) ＜令和6年4月＞ 博士(教育学) 特別活動及び総合的な学習の指導法 生徒指導
兼任	講師	宮本 智子 (47) ＜令和4年4月＞ 修士(神学) キリスト教と人間 現代とキリスト教 人間論(哲学)
兼任	講師	Jean-Marie KAZENGA TSHIMBALANGA (38) ＜令和4年4月＞ 学士(神学) フランス語 I フランス語 II
兼任	講師	石川 大輔 (42) ＜令和6年4月＞ 修士(人間環境学) 生活機能支援論Ⅲ－③(リハビリテーション)※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	尾崎 千晶 (59) ＜令和4年4月＞ 修士(英語学) Writing Reading II Process Writing
兼任	講師	小林 将元 (58) ＜令和5年4月＞ 学士(保健体育) メンタルヘルス・プロモーション
兼任	講師	田中 春香 (57) 学士(文学) ＜令和6年4月＞ 医療英語
兼任	講師	津田 泰宏 (55) ＜令和4年4月＞ 博士(医学) 疾病治療論 I
兼任	講師	寺田 裕美子 (54) ＜令和7年4月＞ 修士(学術) 園芸療法入門
兼任	講師	小野 聡子 (52) ＜令和5年4月＞ 修士(保健看護学) クリティカル・シンキング
兼任	講師	小野 晃正 (51) ＜令和4年4月＞ 博士(法学) 社会と人権(日本国憲法)
兼任	講師	山本 美輪 (51) ＜令和5年4月＞ 博士(看護学) 生活機能支援論Ⅳ－①(老年)※
兼任	講師	山口 悦司 (51) ＜令和6年4月＞ 博士(学術) 教育課程論
兼任	講師	Henriques de Lima Nuno Alexandre (50) ＜令和5年4月＞ 神学博士 宗教論 キリスト教と人間 現代とキリスト教 人間論(哲学)
兼任	講師	川地 亜弥子 (49) ＜令和6年4月＞ 博士(教育学) 特別活動及び総合的な学習の指導法 生徒指導
兼任	講師	落合 芳 (48) ＜令和5年5月＞ 修士(文学) フランス語 I
兼任	講師	石川 大輔 (43) ＜令和6年4月＞ 修士(人間環境学) 生活機能支援論Ⅲ－③(リハビリテーション)※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	藤井 真一 (40) ＜令和4年4月＞ 博士(人間科学) 文化人類学(異文化理解)
兼任	講師	森田 美紀 (36) ＜令和6年4月＞ 修士(学校保健) 養護学概説※ キャリアデザインII※
兼任	講師	松端 克文 (57) ＜令和4年4月＞ 社会学修士 社会福祉論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	藤井 真一 (41) ＜令和4年4月＞ 博士(人間科学) 文化人類学(異文化理解)
兼任	講師	森田 美紀 (37) ＜令和6年4月＞ 修士(学校保健) 養護学概説※ キャリアデザインII※
兼任	講師	松端 克文 (58) ＜令和4年4月＞ 社会学修士 社会福祉論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	清水 拓野 (51) ＜令和5年4月＞ 博士(学術) 文化人類学(異文化理解)
兼任	講師	森田 美紀 (38) ＜令和6年4月＞ 修士(学校保健) 養護学概説※ キャリアデザインII※
兼任	講師	松端 克文 (59) ＜令和4年4月＞ 社会学修士 社会福祉論

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和4年度】

- ・有田弥棋子講師就任辞退。後任未定であるが、令和4年10月から専任教員採用予定で公募中。
- ・中村千賀助教（令和2年12月教員審査済）の着任が1年繰り下げとなった。本人の科目担当開始年度は、令和6年4月である。

【令和5年度】

- ・令和5年4月 得居みのり准教授就任(有田弥棋子講師の後任)。令和4年9月教員審査済み。
- ・令和5年度 松尾博哉教授「人体の構造と機能(解剖学)」と「疾病治療論IV」を追加担当(木村智子兼任講師、大橋一友兼任講師の辞任)。令和4年12月教員審査済み。
- ・令和5年4月 松村麻衣子助教就任。(西垣里志准教授の後任)。令和4年9月教員審査済み。
- ・令和5年度 桑原唯助教就任辞退に伴う後任を公募中。

- 7etavs4
- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ AC教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
12 名	6 名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。
 ・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
13	4	9	4	30	9	13	3	7	4	27	5
(10)	(2)	(6)	(2)	(20)	(2)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
13	4	7	4	28	9	13	4	9	4	30	9
[0]	[0]	[Δ2]	[0]	[Δ2]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
70 歳	6 名	6 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{28}{30} = \boxed{93.33} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{6}{27} = \boxed{22.22} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{9}{9} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
1	講師	有田 弥棋子	R4.3	必修	基礎ゼミ	①	R4.3 本人の家庭事情のため就任辞退（4）
				必修	基礎技術Ⅰ※	①	
				必修	基礎技術Ⅱ※	①	
				必修	フジ・カルアセメントⅡ※	①	
				必修	臨床判断論※	①	
				必修	ヒューマンケア実習Ⅰ	①	
				必修	ヒューマンケア実習Ⅱ	①	
				必修	生活機能支援論Ⅳ-①(老年)※	①	
				必修	生活機能支援論Ⅳ-②(老年)	①	
				必修	生活機能支援論実習Ⅳ-①(老年)	①	
				必修	生活機能支援論実習Ⅳ-②(老年)	①	
2	准教授	西垣 里志	R5.3	必修	フジ・カルアセメントⅡ※	①	自己都合による就任辞退（5）
				必修	生活機能支援論Ⅴ-①(精神)※	①	
				必修	生活機能支援論Ⅴ-②(精神)	①	
				必修	生活機能支援論実習Ⅴ(精神)	①	
				必修	看護研究Ⅱ	①	
				必修	看護研究Ⅲ	①	
3	助教	桑原 唯	R5.3	必修	ヒューマンケア実習Ⅱ	②	自己都合による就任辞退（5）
				必修	生活機能支援論Ⅲ-①(急性)※	②	
				必修	生活機能支援論Ⅲ-②(慢性)※	②	
				必修	生活機能支援論Ⅲ-③(90分)※	②	
				必修	生活機能支援論Ⅲ-④(急性)※	②	
				必修	生活機能支援論Ⅲ-⑤(慢性)	②	
				必修	生活機能支援論実習Ⅲ-①(急性)	②	
				必修	生活機能支援論実習Ⅲ-②(慢性)	②	

合計（D）		後任補充状況の集計（E）											
就任を辞退した教員数	担当科目数の合計（a）+（b）+（c）	①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）							
3	人	必修	26	科目	必修	18	科目	必修	8	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	26	科目	計	18	科目	計	8	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
		該当者なし											
合計（F）		後任補充状況の集計（G）											
辞任した教員数	担当科目数の合計（a）+（b）+（c）	①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）							
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
3 人	必修	26 科目	必修	18 科目	必修	8 科目	必修	0 科目
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	26 科目	計	18 科目	計	8 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{3}{20} = \boxed{15} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和4年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

(注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
 ・ 令和5年度開設の学科等の場合、(D) + (F)と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
		該当者なし						
合計			後任補充状況の集計					
辞任した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0 人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について、記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

・ 有田弥棋子講師、西垣里志准教授就任辞退に伴い、AC教員審査に対応できる教員を令和5年4月1日付で採用した。
 ・ 桑原唯助教就任辞退の後任は未定であるが、令和5年後期からであることおよびオムニバスまたは共同で行われるため、当該科目の他の専任教員で行うことで学生の履修については影響はない。しかし教育の充実を図るため、令和5年度の可能な限り早い時期に公募し、教員審査の申請を行う予定である。
 ・ 学生に対しては、担当者の変更を履修ガイダンス、シラバス、時間割等で十分に周知を図る。

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の の 実 施 計 画
認 可 時 (令和4年)	・設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	遵守事項 設置申請書に即し鋭意実践中である。4年制大学にふさわしい教育研究活動については、教職協働により教育研究に専念できる体制づくりを進めている。	履行中 引き続き、左記の取組を進めていく。
認 可 時 (令和4年)	・長期的かつ安定的な学生の確保に資するため、本学に対する社会的なニーズを客観的な根拠に基づき分析するなどにより、学生募集活動の充実を図るとともに、アドミッション・ポリシーにかなう学生の十分な確保に努めること。	遵守事項 入試委員会および広報委員会を中心となり、本学の競合大学とのデータ比較分析を行い、それを元に本学のアドミッションポリシーにかなう学生を確保するために全教員及び職員が参加して学生募集活動を展開している。	履行中 入学者選抜方法については、設置計画に示した内容、方法で実施していく予定である。本学に対するニーズ等の分析は、広く高校生の進学情報を持つ業者の協力を得つつ、本学教職員による高校訪問で得られる情報等を併せて本学に対する社会的ニーズを可能な限り客観的に把握していく。アドミッションポリシーとの関係では、引き続き設置計画に示した内容に沿って選抜を行う予定である。
認 可 時 (令和4年)	・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編製の将来構想について着実に実施すること。	遵守事項 完成年度後の将来を見通した構想を踏まえて、後任人事の計画を立案中である。その際、若手・中堅教員層の充実を図るよう留意する。また、昇任人事を進められるよう若手・中堅教員の研究活動の活性化を図る。教員補充計画を進めるため、令和4年度は教員任用規程を定めた。	履行中 大学開設2年目から公募によって大学完成年度以降の教員補充計画を進めていく。教育研究の効果的な継続に最大限配慮しながら、可能な限り若手教員の採用を行う予定である。
認 可 時 (令和4年)	・新設大学において、確実に学生を確保できるよう、戦略的に取り組むこと。	入試委員会および広報委員会を中心に学生確保の戦略を綿密に練り、それに基づき全教職員が有機的に活動できるように取り組んでいる。	履行中 引き続き法人内の併設校を含めて本学の建学の精神を共有する高等学校との連携を強化して行く。奨学金制度は継続して運用する。従来本学との関係の強い高校を重点校と設定し、教職員の担当者を決めて出前授業、高校訪問等の細かな活動を強化していく。
認 可 時 (令和4年)	・経常収入に対する教育研究経費の割合が同系統の大学等を設置する学校法人に比べて低く、また、完成年度に至るまでこの状況が継続する見込みとなっていることから、教育研究条件の充実向上に取り組むこと。	教員数の増加に伴い、教育研究経費を高め、教育の質の向上を図る。個人研究経費についても、今までの10万円から教授・准教授25万円、講師・助教20万円と倍増した。教育研究条件の向上を図るために外部資金（とくに科研費）の獲得をめざす努力を行っている。	履行中 完成年度に向けて計画的に教育研究経費の割合を高め、教育の質を高めることとしている。完成年度までに定員を充足させ、他大学と同等レベルくらいまでに教育研究経費、個人研究費も引き上げる事ができるよう取り組む。
認 可 時 (令和4年)	・学校法人運営に支障のないよう、確実に資金計画を実行するとともに、特に、負債の償還にあたっては、関連団体からの寄附金に過度に依存しない返済計画を立てた上で、計画どおりに負債を償還し、負債の減少に努めること。	令和4年度は大学全体の入学定員は充足できなかった（入学定員充足率69.4%）ため、一部資金計画に見直しの必要が生じた。令和5年度の入学定員充足率が92.5%へと改善し、同時にすべての法人内併設校で昨年度に続き生徒数増となったため、負債の返済は計画通り進める予定である。	履行中 学生生徒募集を確実に進め、定員確保を図り、負債の返還を計画通りに進めて、教育研究経費を適切に充当していくよう努力する。また、令和6年度の学費改訂を行い収入増を図る。これらの点は、経営改善計画として法人全体で共有し、負債の減少に努める。

認可時 (令和4年)	・設置校の多くで定員未充足の状態が生じていることにより、学校法人の財務状況が近年悪化傾向にあるため、経営基盤の安定確保及び経営改善に向けた中長期的な財務計画を必要に応じて見直し実行すること。あわせて、校舎の老朽化に対応する修繕を含めた中長期的な施設整備計画について、計画どおりに実行すること。	令和4年度の大学入学者数（教育学部16名、看護学部95名）が定員に満たなかったこと、併設校での定員未充足が続いていることなど一気に改善するには至らないが、法人全体での学生生徒数が対前年度比で令和4年度は49名の増、令和5年度は212名の増となり、決算面では、令和4年度の事業活動収入が増となった。施設整備計画では、大学設置に係る本館の教室改修ならびに本館および1号館のラーニングcommons整備などを設置計画に基づき進めた。	履行中	大学および併設各校の入学定員充足により収入増を図る。収入と支出のバランスを考慮しながら経営基盤の安定化を目指していく。施設整備計画は、令和3年度中にほぼ終了したが、教室内のAV環境の整備、Wi-Fi環境の改善等教育ニーズを考慮して教育研究条件の改善を図っていく。
認可時 (令和4年)	・改組転換（既設の短期大学等を廃止して、その教員組織、施設設備を基に新たな大学等を設置することによる標準設置経費等の特例）に該当するため、審査基準上、設置経費が標準設置経費を下回っても差し支えないが、校舎（機械、器具等）の整備にあたり教育研究に支障がないよう配慮すること。	校舎整備では、大学開学準備として令和3年度中に教育用の機械器具、標本模型、什器備品を整備するとともに必要な図書を整備を行った。令和4年度においては、教室、研究室の什器の更新とオンライン対応を含む図書の充実を図った。	履行中	令和5年度は、Wi-Fi、AV機器をはじめとするデジタル機器等更新の環境整備を進めていく予定である。
認可時 (令和4年)	・改組転換（既設の短期大学等を廃止して、その教員組織、施設設備を基に新たな大学等を設置することによる負債率等の特例）に該当することから、大阪信愛学院短期大学については、計画どおり廃止すること。	・予定どおり令和4年度の大阪信愛学院短期大学の学生募集を停止し、子供教育学科を廃止した。	遵守事項 履行中	令和4年度からの学生募集停止により令和5年度の大阪信愛学院短期大学は看護学科3年生が残るのみとなっている。

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<看護学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど																																																															
<p>令和4年の認可時における附帯事項等で、教育研究経費比率が他法人に比べて低く、教育研究条件の充実向上に取り組むこととの指摘、および学校法人運営に支障のないよう、確実に資金計画を実行し、負債の減少に努めることとの指摘がある。</p>	<p>教育学部入学定員充足率が令和4年度20.0%、令和5年度65.0%であり、見込んでいた収入が減ることとなったため、2学部からなる本学全体の設置計画時資金計画に見直しが必要となった。教育研究条件について、計画時の条件を確保および他大学水準に近づけるよう更なる充実を図ること、ならびに経営の安定化に向けた資金計画を見直して総体として設置計画を履行できるようにするため、令和6年度の新入生からやむを得ず学納金を以下のように改定することとした。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">看護学部</th> <th colspan="3"><2年次以降></th> <th>(単位:円)</th> </tr> <tr> <th colspan="3"><新入生></th> <th colspan="3"></th> <th></th> </tr> <tr> <th></th> <th>現行</th> <th>改定額</th> <th>差額</th> <th>現行</th> <th>改定額</th> <th>差額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入学金</td> <td>170,000</td> <td>250,000</td> <td>80,000</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>授業料</td> <td>1,140,000</td> <td>1,200,000</td> <td>60,000</td> <td>1,140,000</td> <td>1,200,000</td> <td>60,000</td> </tr> <tr> <td>教育充実費</td> <td>60,000</td> <td>80,000</td> <td>20,000</td> <td>60,000</td> <td>80,000</td> <td>20,000</td> </tr> <tr> <td>施設整備費</td> <td>300,000</td> <td>300,000</td> <td>0</td> <td>250,000</td> <td>250,000</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>実習費</td> <td>80,000</td> <td>80,000</td> <td>0</td> <td>250,000</td> <td>250,000</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,750,000</td> <td>1,910,000</td> <td>160,000</td> <td>1,700,000</td> <td>1,780,000</td> <td>80,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>この学納金改定により、令和6年度以降の資金計画が改善されることおよび学生募集活動の強化改善による両学部の入学定員充足化とが相俟って設置計画の確実な履行を進める予定である。</p>	看護学部			<2年次以降>			(単位:円)	<新入生>								現行	改定額	差額	現行	改定額	差額	入学金	170,000	250,000	80,000	0	0	0	授業料	1,140,000	1,200,000	60,000	1,140,000	1,200,000	60,000	教育充実費	60,000	80,000	20,000	60,000	80,000	20,000	施設整備費	300,000	300,000	0	250,000	250,000	0	実習費	80,000	80,000	0	250,000	250,000	0	合計	1,750,000	1,910,000	160,000	1,700,000	1,780,000	80,000
看護学部			<2年次以降>			(単位:円)																																																										
<新入生>																																																																
	現行	改定額	差額	現行	改定額	差額																																																										
入学金	170,000	250,000	80,000	0	0	0																																																										
授業料	1,140,000	1,200,000	60,000	1,140,000	1,200,000	60,000																																																										
教育充実費	60,000	80,000	20,000	60,000	80,000	20,000																																																										
施設整備費	300,000	300,000	0	250,000	250,000	0																																																										
実習費	80,000	80,000	0	250,000	250,000	0																																																										
合計	1,750,000	1,910,000	160,000	1,700,000	1,780,000	80,000																																																										

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

ア【大阪信愛学院大学FD・SD委員会】

令和4年4月に大学組織として設置。構成員は、学長が指名した委員長及び委員長が氏名した副委員長、各学部から選出された教員（各2名）、総務課長である。

イ【大阪信愛学院大学学術・研究推進委員会】

令和4年4月に大学組織として設置。構成員は、学長指名の委員長及び両学部長、しんあい教育研究ケアセンター長、研究倫理委員長、総務課長である。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

ア【大阪信愛学院大学FD・SD委員会】

令和4年度の委員会は、5回、令和5年は4月に1回開催し、年間6回開催予定である。

イ【大阪信愛学院大学学術・研究推進委員会】

令和4年度の委員会は、10回、令和5年は4月に1回開催し、年間11回開催予定である。

c 委員会の審議事項等

ア【大阪信愛学院大学FD・SD委員会】

- (1) 建学の精神に基づく教育推進のための研修及び調査に関すること。
- (2) 教育力向上、教授法改善のための研修及びその支援に関すること。
- (3) 職員の能力開発、向上のための研修及びその支援に関すること。
- (4) ファカルティ・ディベロップメント及びスタッフ・ディベロップメントに関すること。
- (5) その他委員会の目的達成のために必要な事業に関すること。

イ【大阪信愛学院大学学術・研究推進委員会】

- (1) 研究組織・研究環境整備に関すること。
- (2) 研究費のあり方に関すること。
- (3) 研究費の不正使用防止に関すること。
- (4) 知的財産の創出・活用に関すること。
- (5) 研究活動の評価・改善に関すること。
- (6) 研究成果の発信（紀要、出版等）に関すること。
- (7) 外部競争資金の導入促進に関すること。
- (8) 地域・他大学連携等の研究推進に関すること。
- (9) その他、研究推進に関すること。

② 実施状況

a 実施内容

ア【大阪信愛学院大学FD・SD委員会】

- ・ 授業評価アンケートの実施
- ・ FD・SD研修を実施している。令和4年度は6回、令和5年度は1回実施し、今後数回の開催を予定している。

イ【大阪信愛学院大学学術・研究推進委員会】

- ・ FD・SD委員会と共催で研修を実施している。

b 実施方法

ア【大阪信愛学院大学FD・SD委員会】

- ・ 授業改善と実態把握のため前期・後期開講科目の授業評価アンケートを行う。
- ・ 共同研究促進のための研究交流研修の開催を予定。
- ・ コンプライアンス・ハラスメント防止研修会の開催

イ【大阪信愛学院大学学術・研究推進委員会】

- ・ 令和5年度から学内研究奨励費制度を設け、コンペ形式で募集、選考し、合格者に研究奨励費を支給する。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

ア【大阪信愛学院大学FD・SD委員会】

- ・ FD・SD研修会の参加状況は、以下のとおりである。

令和4年度

第1回	FD研修会	「学術研究研修会」	参加人数	40名
第2回	FD研修会	「研究倫理教育研修会」	参加人数	40名
第3回	FDSD研修会	「教育未来創造会議「第一次提言」が示すもの」	参加人数	57名
第4回	FDSD研修会	「ハラスメント研修会」□	参加人数	47名
第5回	FDSD研修会	「オンライン授業～Teams～」□	参加人数	45名
第6回	FDSD研修会	「困難を抱えている学生の対応」	参加人数	47名

令和5年度

第1回	FD研修会	「研究に必要な統計学」	参加人数	35名
-----	-------	-------------	------	-----

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ 授業評価アンケート結果の分析をもとに学部での授業改善、教育改善の取組に反映
- ・ 研修会を通じて、教育活動促進、授業改善や学生支援に活用

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・ 前期（7月、8月）及び後期（1月、2月）に実施予定。
- ・ 学内ポータルサイトにて学生がオンライン入力。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・ 前期及び後期とも、授業担当者から、アンケート結果に対して学生に改善点等をフィードバックを行うとともに、その結果はパソコン上でも閲覧可能とする。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

「該当なし」

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

毎年度の自己点検・評価活動は、PDCA サイクルに基づくもので、年度初めの「自己点検・評価実施案」と年度末の「自己点検・評価報告書」によって行う。

自己点検・評価案は、各学部、その他各部署がそれぞれ作成する。その内容は、中期目標・計画に基づく各部署の年度目標、具体的計画、過去の点検評価に基づく改善点などをまとめたものである。

年度末には各部署の責任者が、年度初めの「目標や計画」がどの程度達成されたかを検証して「自己点検・評価報告書」としてまとめ、学長に提出する。この検証結果を翌年度の自己点検・評価実施案に反映（活用）することで大学のPDCA サイクルを機能させる。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・ 令和5年8月1日 公表予定

b 公表方法

- ・ 自己点検・評価報告書は、本学ホームページ上で公表する。

③ 認証評価を受ける計画

- ・ 7年に一度、公益財団法人大学基準協会による大学評価を受け、その結果を公表する予定である。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和5年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 a で「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 a で公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

大阪信愛学院大学 FD・SD 委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、学校法人大阪信愛女学院管理組織規程第21条に基づき設置する大阪信愛学院大学 FD・SD 委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

(委員)

第2条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 各学部から選出された教員各2名
- (2) 総務課長
- (3) その他委員長が必要と認めた者

2 前項の規定による委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし補欠の場合の任期は前任者の残任期間とする。

(委員長等)

第3条 委員会に委員長を置き、学長の指名とする。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その会議の議長となる。
- 3 委員会に副委員長を置き、委員長の指名とする。
- 4 副委員長は、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

(実施事項)

第4条 委員会は、次の活動の企画・立案及び運営を行う。

- (1) 建学の精神に基づく教育推進のための研修及び調査に関すること。
- (2) 教育力向上、教授法改善のための研修及びその支援に関すること。
- (3) 職員の能力開発、向上のための研修及びその支援に関すること。
- (4) ファカルティ・ディベロップメント（以下 FD という。）及びスタッフ・ディベロップメント（以下 SD という。）に関すること。
- (5) その他委員会の目的達成のために必要な事業に関すること。

(会議)

第5条 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

- 2 委員会の議事は、出席した委員の過半数を以て決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(事務)

第6条 委員会に関する事務は、総務課において行う。

(規程の改廃)

第7条 この規程の改廃は、全学教授会の議を経て学長が行う。

附則

(施行期日)

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

大阪信愛学院大学学術・研究推進委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、学校法人大阪信愛女学院管理組織規程第21条に基づき設置する大阪信愛学院大学学術・研究推進委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について定める。

(委員)

第2条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 委員長
- (2) 各学部長
- (3) しんあい教育研究ケアセンター長
- (4) 総務課長
- (5) その他委員長が必要と認めた者

2 前項の規定による委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし補欠の場合の任期は前任者の残任期間とする。

(委員長等)

第3条 委員会に委員長を置き、学長の指名とする。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その会議の議長となる。
- 3 委員会に副委員長を置き、委員長の指名とする。
- 4 副委員長は、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

(審議事項)

第4条 委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 研究組織・研究環境整備に関すること。
- (2) 研究費のあり方に関すること。
- (3) 研究費の不正使用防止に関すること。
- (4) 知的財産の創出・活用に関すること。
- (5) 研究活動の評価・改善に関すること。
- (6) 研究成果の発信（紀要、出版等）に関すること。
- (7) 外部競争資金の導入促進に関すること。
- (8) 地域・他大学連携等の研究推進に関すること。
- (9) その他、研究推進に関すること。

(会議)

第5条 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数を以て決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(専門委員会等)

第6条 委員会の目的を果たすため、委員長の判断により、本委員会の下に各種専門委員会（以下「専門委員会」という。）を設置することができる。

2 専門委員会の委員は、委員長の推薦を受け、学長が指名する。

3 専門委員会に関する事項は別に定める。

(事務)

第7条 委員会に関する事務は、総務課において行う。

(規程の改廃)

第8条 この規程の改廃は、全学教授会の議を経て学長が行う。

附則

(施行期日)

この規程は、令和4年4月1日から施行する。